

雜 錄

○御大典記念圖書館開館式

御大典記念圖書館は、本年五月末日を以て、其の建物の工事を竣成せることは、當時既に詳報せる所なるが、其の後圖書館使用上必要なる電燈器、煖房装置、椅子卓子、書棚等の諸設備の工事を九月上旬までに完成せるを以て、同月二十八日を期し、其の開館式の舉行あり。先づ當日の順序を擧ぐれば左の如し。

開館式々順

- 一、午後二時一同着席號鐘を以て之を報ず
- 二、校長開館式詞
- 三、文部大臣祝詞
- 四、來賓演說

然るに 今上陛下御即位の御大典は、洵に曠古の盛典で御座いますして、當時朝野舉て此の御大典を奉祝すると同時に、之れが記念事業に就て、種々企劃せられましたので、文部省に於ては、直轄學校を初め全國諸學校に對して、右記念事業の標準をさへ示された様の次第で御座いましたから、本校に於ても是非何等かの方法を以て教育上裨益ある事業を企劃し、以て曠古の大典を奉祝致したいとの趣旨を以て、本校の出身者に諮りました所が幸に同窓會並に如水會の賛同を得まして乃ち本圖書館の建設を見るに至りました。

斯様の次第で御座いますから私は、本日來賓各位の御面前に於て、同窓會並に如水會の諸君に對し二重の感謝を表せねばならぬ事と存じます。一は即ち之れに依りて本校は御大典記念事業を盛んにすることを得たる事。又他の一は即ち之れに依りて、本校教育の不備を完全せしむることを得たる事でありませう。而も之れが本校出身者の忠君愛國

五、同窓會及如水會代表者祝詞

六、學生々徒總代祝詞

七、一橋會總代祝詞

八、兩陛下萬歲三唱

右終て館内觀覽

別館に於て茶菓を呈す

當日は幸にも連日の宿雨全く晴れて、所謂秋晴の好天氣となりしを以て、朝野の名士、學校出身者等約三百名の來賓ありて、頗る盛會を極めたるが、當日校長の式詞其他祝詞演說等を順記すれば左の如し。

○佐野校長開館式詞

本日は御繁用中にも不係、斯く多數の御貴臨を得ましたのは、本校一同の最も光榮とする所でありませう。

心並に愛校心の發露なる事を深く喜ぶのであります。尙ほ此の機會に於て本校圖書館沿革の概略に就いて一言致して置きたいと思ひます。

本校が最初明治十八年東京外國語學校より引繼を受けたる當時の書庫は其の建坪僅かに十五坪位のものにて其の藏書の如きも半ばは教科書位の事に實に不完全極まれるものでありましたが、其の後明治二十三年に至りて、煉瓦造二階建の建坪十七坪五合の書庫を新築せるものが即ち今日まで使用し來れるもので御座いましたが、其の新築の當時に於きましては、之を以て殆んど永久に滿すべきものと思考せられたるも、去る明治三十三年以來、最も精選せる歐米の新圖書を毎年續々購入致しましたので既に數年前より書庫の狹隘を告ぐるに至りましたから、乃ち更に今回の新築を見るに至れる次第で御座います。而して今回新築の書庫は總鐵筋混凝土造四階建にして、其の建坪三十八

坪七合五勺でありますが、其れと本校現在の圖書の數量を申しますれば、今回新築の書庫に藏せるものは約四萬七千冊で御座います。尙ほ此の外に専攻部の研究室内に藏せる濹澤文庫、牧野文庫、小池文庫等篤志家の寄贈に係れるものも御座います。今や本校の圖書は殆んど完備せりと申しても宜しいかと思ひます。而して以上新舊の事實を對照致しますれば、實に隔世の感なくんばあらずと申しても宜しいので、殊に私の如きは約三十年來其の新舊の沿革を躬自ら目撃致しまして、洵に今昔の感に堪へないので御座います。

茲に本校圖書館沿革の大略をも附言致しまして本日、の式詞に代へた次第で御座います。

○文部大臣祝詞
大正四年ノ秋、
聖上陛下即位ノ大禮ヲ舉ケサセ給フヤ東京高等商業學校卒業生諸氏斯ノ曠古大典ノ記念トシテ母校ノ爲ニ爲ス所アラントシ戀ニ相謀ル所アリテ遂ニ

○濹澤男爵演說要旨

右岡田文相の祝詞に次いで來賓濹澤男爵登壇せられ私共の如く、昔の古い書物を讀むのと、今日の新しい書籍を讀むのとは、自ら其の方法等に相違はありませうが、何れに致せ智識と讀書と密接の關係あるは論を待たぬ事と思ひます。

とて、先づ讀書上の注意を喚起せられ、然るに先刻佐野校長は、既往三十年來今昔の感に堪へぬと申されましたが、私に於ては今昔の感が更に尙ほ三十年許り長い様であります。

と述べて満場を笑はしめ、續いて榮根譚中の格言を擧げて、讀書上有益の指針を示され、又韓退之の言を引いて、圖書館を有効に利用する所以の道を、例の得意の雄辯を以て諄々訓示せられたり。

○澤柳博士の演說大意
右濹澤男に次いで澤柳博士登壇せられ、大要左の如き演說あり。

議ヲ圖書館ノ建設ニ決シ爾來著々經營其ノ歩武ヲ進メ輪奐ノ美爰ニ成リテ恭シク之ヲ母校ニ獻ジ本日ヲ以テ開館ノ式ヲ舉グ庫ハ裕ニシテ十萬ノ卷冊ヲ藏スベク室ハ廣クシテ數百ノ讀書子ヲ容ルベシ顧フニ教學ノ振興ハ
陛下ノ夙夜ニ軫念アラセラレ給フ所而シテ圖書館ノ完備ハ洵ニ學校教育ノ完成ヲ助クル所以ナリ斯ノ圖書館ヲ經營シテ之ヲ斯ノ大典ノ記念ニ充ツ事業ノ撰擇眞ニ其宜シキヲ得タリト謂フベシ況ヤ其ノ舉一ニ卒業生諸氏カ母校ヲ念フノ至情ニ出テ、企劃經營專ラ諸氏ノ手ニ成レルヲヤ輒チ其ノ情ノ美ニシテ芳シキモノ之ヲ堂宇ノ美ニ比シテ更ニ幾層ナルモノアルヲ觀ル
尙ハクハ本校教育ノ將來ガ此ノ圖書館ニ依リテ更ニ其ノ効果ヲ完ウシ斯ノ記念事業ヲシテ永久ニ其ノ光輝ヲ發セシメンコトヲ
一言ヲ陳ヘテ開館ヲ祝ス
大正六年九月二十八日

今上陛下の御即位御大典記念の事業と致しまして本校出身者諸君が母校圖書館の建築を企圖せられたる事は、最も意味の深き、且つ最も効果ある記念事業と信ずると同時に、流石に教育ある諸君の好計畫として敬服措く能はざる次第で御座います。彼の世界の富豪たるカーネギー氏の如きも、氏の經營に係る大小幾多の公共事業中、最も力を盡されて居るのは圖書館事業であります。そこで米國の如きは、此の事業が頗る發達を遂げて居りまするが、而も圖書館なるものは學校に於ける生命とも謂つべきものなるにも係はらず、我國に於ては歐米に比するときは、此の事業が何よりも後れを取つて居るのであります。然るに本校に於きましては、彼の本邦最高の學府たる帝大の圖書館は別として、他に多く比類を見ざる程の完全なる圖書館が建設せられまして、本校の施設上に一大發展を來したるは、定めし寄附者の満足せらるゝ事を思ふのであります。而も此の圖書館に由りて、今